

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第3陣

訪問日程 平成25年7月21日（日）～7月28日（日）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第3陣計31名が、7月21日から7月28日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会・政治交流部部長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の大学生との交流をはじめとしたプログラムのほか、企業視察、伝統文化体験、地域参観等を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

7月21日（日）

成田空港着、皇居二重橋参観、オリエンテーション

7月22日（月）

外務省訪問・日本文化に関するセミナー、国会議事堂視察、浅草寺参観、歓迎会

7月23日（火）

宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センター視察、サイエンス・スクエアつくば視察、筑波大学訪問・交流

7月24日（水）

京都府へ移動、金閣寺参観、京町屋文化体験（西陣くらしの美術館富田屋）、和風温泉旅館で日本文化体験

7月25日（木）

京都府政の説明、京都国際マンガミュージアム視察、嵐山参観

7月26日（金）

京都伝統産業ふれあい館視察、企業視察、（オムロンコミュニケーションプラザ）、日中大学生交流（清水寺参観、意見交換会、夕食交流会）

7月27日（土）

大阪へ移動、ATCエイジレスセンター視察、大阪城参観、商業施設視察、歓送報告会

7月28日（日）

関西空港より帰国

3 写真

	
7月21日 皇居二重橋参観(東京都)	7月22日 宇佐美毅中央大学教授によるセミナー(東京都)
7月21日 参观皇居二重桥(东京都)	7月22日 宇佐美毅中央大学教授的讲座(东京都)
	
7月22日 宇佐美毅中央大学教授によるセミナー 質疑応答(東京都)	7月22日 国会議事堂視察(東京都)
7月22日 宇佐美毅中央大学教授的讲座 答疑(東京都)	7月22日 考察国会议事堂(东京都)
	
7月22日 歓迎会 下川眞樹太外務省アジア大洋州局参事官の挨拶(東京都)	7月22日 歓迎会 江田日中友好会館会長(右)と団員(東京都)
7月22日 欢迎会 下川真树太外务省亚洲太平洋局参事官致辞(东京都)	7月22日 欢迎会江田日中友好会馆会长(右)和团员(东京都)

	
7月22日 歓迎会 着付けの体験	7月23日 JAXA 筑波宇宙センター視察(茨城県)
7月22日 歓迎会 体験穿浴衣	7月23日 考察 JAXA 筑波宇宙中心(茨城県)
	
7月23日 サイエンス・スクエアつくば視察(茨城県)	7月23日 筑波大学訪問 茶道体験(茨城県)
7月23日 考察筑波科学角(茨城県)	7月23日 访问筑波大学 体験茶道(茨城県)
	
7月23日 筑波大学訪問・交流(茨城県)	7月24日 金閣寺参観(京都市)
7月23日 访问筑波大学・交流(茨城県)	7月24日 参观金閣寺(京都市)

	
7月24日 京町屋文化体験（京都市）	7月25日 京都府政の説明（京都市）
7月24日 体験京町屋文化(京都市)	7月25日 京都府政府講座(京都市)
	
7月25日 嵐山参観 周恩来元首相の詩碑に三礼（京都市）	7月26日 オムロンコミュニケーションプラザ視察（京都市）
7月25日 参观岚山 向周恩来总理诗碑行礼（京都市）	7月26日 参观欧姆龙交流广场(京都市)
	
7月26日 日中大学生交流 清水寺参観（京都市）	7月26日 日中大学生交流 意見交換会（京都市）
7月26日 日中大学生交流 参观清水寺（京都市）	7月26日 日中大学生交流 意见交换会（京都市）

	
7月26日 日中大学生交流 グループ発表 (京都市)	7月26日 日中大学生交流 夕食交流会 (京都市)
7月26日 日中大学生交流 各组员发表讨论情况(京都市)	7月26日 日中大学生交流 晚餐交流会 (京都市)
	
7月27日 ATC エイジレスセンター視察 (大阪市)	7月27日 大阪城参観 (大阪市)
7月27日 考察 ATC 忘年中心 (大阪市)	7月27日 参观大阪城 (大阪市)
	
7月27日 歓送報告会 王占起団長の挨拶 (大阪市)	7月27日 歓送報告会 訪日成果報告 (大阪市)
7月27日 欢送报告会 王占起团长致词 (大阪市)	7月27日 在欢送报告会汇报访日成果 (大阪市)

4 参加者の感想（抜粋）

○ 訪日前に、テレビで日本人がホテル入口で丁寧に辞儀している様子を見たが、日本に来て、日本側受入スタッフやホテルの従業員が、みんな丁寧に、心を込めてお辞儀するのを見て、これは単なるしきたりではなく、心から感謝や友好的な気持ちを伝えたいのだと感じた。本当に日本人は礼儀正しいと思った。日本の学生との交流会に参加して、平素、感じていた、近づきがたく距離感がある印象とは違い、みんなわいわい楽しく、決してよそよそしく感じることはなかった。

今回の訪問は始まったばかりだと思っていたら、もうすぐ終わりだ。忘れられないことがたくさんあったが、なかでも印象に残ったのは、日本の先進技術と企業が社会にサービスするという理念、そして日本の学生との交流だ。サイエンス・スクエアつくばでは、素晴らしい未来を感じることができた。科学技術のおかげで、私たちの生活はより便利で、充実したものになる。ATC エイジレスセンターでは、高齢者の生活の不便を身をもって体験し、社会や企業の高齢者に対する思いやりも感じることができ、人は他人のためになることをすることで、すべてが意義あることになると思った。

筑波大学を訪問して、茶道体験と日本の学生との交流を行い、日本の学生の普段の学生生活がよくわかった。でも、一番印象深かったのは、日本の学生と清水寺を拝観して、その後、交流プログラムに参加したことだ。それぞれの人生観、結婚観を話し合い、自分の将来の理想を語り合ったとき、中日の学生は、いろんな面において大差はなく、みんな同じように迷ったり、将来の行き先を求めて努力していると感じた。また、中日間の友好交流について話が及んだが、みんな、中日間の懸け橋になりたいという同じ考えをもっていた。そこに、中日両国の未来を見ることができた。私も、その未来のために、奮闘して、貢献したい。

日本の学生との交流では、中日の明日―素晴らしい明日が見えた。みんなで普段の生活などについてディスカッションしながら、一つのメッセージを発信していた。中日の明日は私たちが共同で創造していかなければならないと。みんな、心から中日関係がよくなってくれることを願っていた。京都駅にあるお店の店員さんと言葉を交わして、私が中国人と分かったときに、中日関係が良くなってほしいという願いを伝えられた。彼女は、今、中日間が緊張状態にあるのは、ある問題について立場が違うからだけど、友好交流は両方にとって有益だと思っていた。私も、彼女の言葉から、こんなにも多くの日本の一般人が中日友好を切望しているのだと分かり、感動した。

帰国したら、周りの人にこのようなメッセージを伝えたい。日本は、みんなが礼儀正しく、優しいところで、中国の多くの人と同じように、日本の一般人の多くが、中日友好を願っている。自ら日本に来て、この国を見てみれば、中日両国民が同じように強く、友好交流を心から願っていると分かる。

○ 成田空港を出発したときから、空気がきれいで、清々しいと感じていた。景色も色鮮やかだった。今回の滞在中、たくさんのお名所、スポットを見学し、東京、京都、大阪、筑波、亀岡などの都市を訪問することができた。行くところすべて、草木の緑と活力に満ちていて、道路も大変きれいだった。このように素晴らしく環境保護が実践されているのは、日本人の環境保護に対する意識が大変高く、実際の行動において多大な努力をしているか

らで、それは、ゴミの分類からだけでも見てとれる。この点について、中国人は自分たちの行動を振り返り、そこから学び、参考にすることができると思う。

深く印象に残ったのは、素晴らしい環境だけではなく、もっといろんな面にもあった。日本人の（サービス業の人だけではなく、一般の人も）温かさ、礼儀正しさ、時間厳守、また、科学技術分野におけるイノベーション、伝統文化の保護、高齢者に対する心配りなど。全体としては、日本の多くの面において、私たちは考えさせられ、また、そこから学ぶことができると思う。今回の訪日は収穫が多かった。

○ 京都府のオムロンコミュニケーションプラザを見学した際、深く印象に残ったことがある。会社の創業者は「企業は利益を得ることだけを目的としてはいけない。社会への貢献に全力を尽くさなければならない。なぜなら、企業も社会の一部であるから」と語っていた。確かに、この企業の製品はハイテク、人に優しいことを特徴としていて、地下鉄の自動改札機、血圧計、翻訳ソフトなどの製品を設計し、人々の生活に便利なサービスを提供していた。見学する前には、企業といえば、すぐに思いついたのは利益で、企業はお金儲けのためでなければ、何のために運営していくのかと疑問に思っていたが、利潤を上げるのは最も基本的なことであるだけで、オムロンのように、人にサービスし、社会に貢献するという理念が人々の心に深く刻まれば、そのような企業は利益だけでなく、さらに名声も得ることができる。個々の企業が、個々人が社会に貢献することを自分に求めれば、私たちの社会はきっと、より素晴らしいものになると思う。帰国後は、このような精神、理念を周囲の人に伝えたいと思う。これは中国の一部の企業に欠けているだけではなく、世界でも欠けていることだ。

○ 歓迎会に、たくさんの日本の大学生が参加していたことが一番印象深かった。初めての日本の同年代との交流で、どう接していいかわからなかったが、彼らから積極的に話しかけてくれて、交流した。とても暖かく、親しみをもって接してくれた。

帰国後、自分で接したことがないのに、簡単に決めつけてはいけないと、みんなに話したい。日本は一衣帯水の隣国だけど、お互いの交流や理解はまだまだ足りない。日本の大学生との交流で、日本人の中国に対する印象は良くないが、どんな印象なのかもよくわかっていないと分かった。実際のところ、中国でも同じようなことが言える。今回、日本に来て、以前の日本人に対する固定観念が打ち破られた。やはり本当の知識は実践から生まれるのだ。みんな、自分で一度日本に来て、日本人とたくさん接してほしい。そうすれば本当に日本を理解することができる。

以前、日本人は他人に対して距離を保ち、人と付き合うのを好まず、冷たいと思っていたが、正真正銘の日本人との交流を通して、本当はとても暖かいと分かった。

日本の学生との交流で、会話をトレーニングすることができたし、日本人の考え方を身をもって感じ、日本語の学習に大変役立った。日本で知り合った友人と今後も連絡し合って、よい友達になりたい。

○ 「光陰矢の如し」、時間のたつのが飛ぶように早いことに驚く、このことわざが、今、このときの自分の心情をよく表している。いつの間にか、1週間の訪日活動が終わった。でも、今回の活動の一つ一つの細かいところまで、ありありと目に浮かぶ。日中友好会館会

長の心のこもった挨拶、日本の友人との心を開いた交流。荘厳な皇居、オムロンのミラクルな科学技術。緻密で繊細な金閣寺、日本側スタッフが暑い中、みんなのために仕事している様。これらのすべてが、深く脳裏に刻まれている。日本語を学んでいる学生として、今回の活動で、本には載っていない多くの知識を学ぶことができた。語学面では、日本人が実際の生活の中で使う日本語を学ぶことができた。文化面では、日本の今のポップカルチャーと伝統文化を理解し、温泉旅行や、懐石料理などの日本人の本当の生活を体験した。すべてが、日本に留学しようという決心をさらに揺るぎないものにした。

総括：百聞は一見にしかず、来たかいがあった。

○ 中国日本友好協会の中国大学生訪日団の一員に選ばれ、今回、訪日して交流学习をする機会がもてたことは本当に幸運だった。今回の活動で、たくさんの得難い経験をし、成長することができた。

数えきれないほどある中で、ひとつだけ例を挙げたい。

日本人は「規範」意識が高い。電車が秒まで正確に停車し、数歩で渡れる横断歩道もみんな信号無視することはない。このような細かいところにまで、厳しく自らを律するという日本人の国民性が表れている。もしかしたら、「そんなにも規範を守るのは疲れないのか？」と尋ねる人がいるかもしれない。日本に来て経験してみて、全然そんなことはないと思った。なぜなら、日本では信号無視して車に引かれる心配をしなくていいし、割り込みで交通渋滞する心配もない、自分の自転車を盗まれないよう、いかにロックするかについて頭を悩まさなくてもよいのだ。不必要な心配や、やりくりが減って、生活は実際、もっと楽になる。

周りの人に伝えたいメッセージは何かといえ、ただ、事実は自分で判断すべしとだけ言いたい。

日中関係は、ずっと楽観を許さない状態と言えるし、最近はさらに非常に厳しい状態だ。しかし、それによって発生した、事実と違う偏ったメディアの報道や映画、テレビ、演劇作品が、社会に多少マイナスの影響を与えている。そして、暴動のような極端な事件まで起きている。大学生として、私たちは自分で判断する能力と責任をもち、軽々しく信じたり、盲目的にしたがってはいけない、自分の目で探求し、見い出さなければならない。

○ ①印象に残ったこと

サイエンス・スクエアつくばとオムロンコミュニケーションプラザを見学して、日本のハイテクを目のあたりにし、エイジレスセンターで日本人の「思いやり」と、やはりハイテクを体験した。これらは学んで、参考にする価値が大いにあった。他でも述べたように、日本の学生が、中国語が好きだから、または留学のために中国語を勉強していて、専攻は別の分野であった。私たちは日本語を専攻している。この点は学ぶべきところがあると思った。それ以外にも、日本は空気がきれいで、和食は目でも楽しめる、買物や食事の際の日本人のサービスの姿勢などが印象に残っている。日程表なども、すべて、とても、とても緻密に作られており、日本人のこのような緻密さ、丁寧さ、責任感は深く印象に残った。

○ ②周りの人に伝えたいこと

帰国したら、周りの人に一番伝えたいのは、日本のハイテク、高い生活水準と生活のクオリティだ。次に、1週間、日本人の温かく、行き届いたもてなしを受け、宿泊したホテル、

おいしい食事、目にした美しい景色を伝えたい。また、日本人の環境保護に対する意識や節約精神、日本の大学生の温かさや考え方、親しみと友情にあふれたスタッフなどたくさん伝えたいことがある。

日本に来たのは初めてではなかったけれど、毎回新しい収穫がある。今回の貴重な機会に感謝し、大切に、本当の日本を周りの人に伝えたい。

○ 宇佐美毅教授のセミナーで、日本人が自分の感情をなかなか表に出さない理由が、より理解することができた。なかなか表に出さないことは、冷たいからだとか、感情がないわけではないのだ。

①異なる学校からきた学生と一緒に各プログラムに参加し、多くの人の優れた点を見ることができた。特に、一部の学生の日本語の会話力（敬語の使い方など）は大変素晴らしく、自分に対する啓発にもなった。

②日本の学生とグループディスカッションをする中で、日本人のチームで仕事するときのやり方を体感し、日本の若者の現代の社会事象に対する考え方を理解することができた。

経済が発展するに伴って、晩婚化や少子化などの社会問題も発生する。日本は何年も前に高齢化社会に突入した。実際、中国も今まさにこのような発展の途上にある。それに伴って発生する問題をできるだけ解決するため、日本は各分野において努力中で、また、科学技術はさらに欠くことのできない重要な位置を占めている。今回、ATC エイジレスセンターの見学を通して、障害者や高齢者の不便さを身をもって感じることもできたし、日本のバリアフリー設備における先端技術とユニバーサルデザインは素晴らしいと感心した。

日本人が細かいところまでこだわり、より良い、より便利な生活を創造するため努力して生み出した多くの生活用品にとっても興味を引かれ、関連する仕事に就いて、もっと多くの人に日本の、人に優しい、最先端の生活用品を紹介することができればと思った。

○ 以前に日本に来たことがあり、日本人に対する印象に大きな変化はない。但し、今回の活動に参加して、日本人の細部にまでこだわり、完璧さを追求するところや他人に対する配慮や思いやりを身をもって感じた。

日本人は時間を厳守し、計画的に物事を行う。

また、日本の社会は、一人一人の国民を重視し、国民の日常生活を向上させ、完備したものにするため、先進科学技術を運用しており、大変便利だ。

日本の自然環境は美しく、サービス業従事者のサービス態度は素晴らしい、この分野では中国は努力を重ねていかなければならない、その路はとても長い道のりだ。

これらの日本の良さや日本人が温かくもてなしてくれたことを、できるだけ多く、周りの人に伝えるつもりだ。

京都での日本の学生との交流では、幸福感について話し合った。中国の学生は、主に自分自身が人よりぬきんでる、自身の健康、家族の幸福で幸福感を感じるが、日本の学生は、自分自身の生活の幸福以外にも、もっと周りの人、世間とかかわりや世間から自分にフィードバックされる幸福によって幸福感を感じていた。これは中日両国の国民性を表す一側面と言える。